

しまね国際センター機関誌

まいるすとんづ

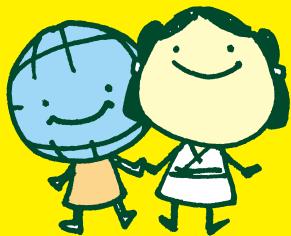
M I L E S T O N E S

2020 March

77

特集1 設立30周年記念!

特集2 SIC訪問日本語コース



しまねと世界をもっと近くに。

2019
平成 令和

SIC30年

SICトピックス
しまね多文化共生総合相談ワンストップセンター
JICA草の根技術協力事業〈第2次プロジェクト〉3年目!

SIC見聞録
ベトナム☆フェスタ@ごうつ2019

SICレポート
令和元年度国際化功労者顕彰



三十周年 記念講演会
法人 しまね国際センター





設立30周年記念！

しまね国際センターは、2019年11月1日に設立30年を迎え、それを記念して、講演会とオープンハウスを開催しました。

2019年11月2日、松江テルサにおいて開催した理事長 有馬毅一郎による記念講演の要旨を紹介します。

講演会 LECTURE 温故知新～国際化新時代に寄せて～



今年SICは30周年を迎えることになりました。本日はたくさんの方にご出席いただき、お礼を申し上げます。この30年を振り返るとともに、これから先のことを考えさせていただく機会にしたいと思います。

SICの誕生は平成元年です。SICの時代は平成の時代とちょうど重なります。この平成の30年を振り返ると、改組、名称変更、移転などを繰り返しながら公益法人化しました。平成の前半は島根の子どもたちを青年の翼・船事業で海外に送り出し、大人もまた中国や韓国へと渡り、県内でも国際交流を盛んにしていた時期がありました。

私が理事長を引き継ぎ11年経ちますが、引き継いだ頃は、組織統合や廃止論さえ聞こえてくるような厳しい時期でした。現在は、ブラジルとの環境教育プロジェクトなども行い、現地やJICAからも強い要望を受けて6年続けています。また、昨年始めた地域・企業に出かけていって日本語を教える事業などは全国に先駆けて行うものであり、誇れる事業です。

私自身は田舎育ちで閉鎖的な出雲人、国際化や国際交流などの感覚に乏しい人間だと思っています。人間の国際性はどうやって育つか、色々と思うところがありました。中国に渡っていた父母のもと、天津で生まれた私は、小学校までの8年間中国で暮らしました。10年前に北京と天津を訪れたが、小学生までの経験による国家観というものは外れていないものだと思いました。子どものときには感覚的に捉えていますが、現地で暮らすということは、テレビで見たものとは違い、非常に大切なだと感じさせられました。また、高校生の頃に毎週のように外国の映画をたくさん観たのも国際性や感覚に影響したかもしれません。また、島根大学教育学部の改組の仕事をしたことがあり、大学間、附属学校間の協定も結び、6年間韓国という外国と接する機会を得て、外国の親友ともいえる人を得ました。国際交流というのは、人ととの繋がりを得る大切なものだと感じました。

国際化とは何か。田舎に大阪から戻ってきた人が仲間はずれになったところを見たことがあります。これは周りが受け入れる力を持っていないこと、帰って来た人もその土地の習慣などに馴染めないとということです。外国から来たらもっと大変だと思います。入管法改正により今後外国の方が増えると思われますが、国際化というのは次の時代に一層必要で、日常生活レベルで、外国人の人と住民同士としてワンチームになり、融合できるかということ。異文化というのは、それぞれ違う暮らし方があり、理解は容易ではなく、それをどう克服するか。互いの文化を尊重し、共生社会を作っていくことが大切になってきます。

私が作った言葉ですが、「人間から自然を取ると、不自然になる」。つまり、外国人が来た時に、東京のような大都市を日本の代表・理想として伝えないこと。日本の山間地こそ、日本の原点であるということを伝え、田舎ならではの良さを知ってもらい、外国人との共生を考える必要があります。日本という国はたった数十年で都市化したので、人々は自然の価値を見失いがちになっているのではと思っています。

SICの居心地がよく、在任して10年以上経ちましたが、これから先もしまねの国際化が希望を持って踏み出すことを祈り、また誓いたいと思います。



オープンハウス OPEN HOUSE

アフリカの布を厚紙に貼り、しおりを作りました。カラフルな布がたくさんで、ついつい時間を忘れてしまいます。



中国の切り絵。
はさみをうまく使って細かい模様に挑戦！



ベトナムのボードゲームです。ベトナムではだれでもできる人気のゲーム。おはじきを取り合うルールを覚えるのが大変！



ドミノを紹介。
簡単なルールで子どもから大人までみんなで楽しみました。



世界の国旗や国の形のパズル。
お子さんが集まってにぎわいました。



当センターの事業や
外国人住民からの
一言メッセージを
展示しました。





SIC訪問日本語コース

現在、島根県には8,856人の外国人住民が暮らしています^{*1}。昨年の住民基本台帳に基づく人口動態調査^{*2}では、外国人増加率が15.4%と全国1位になった島根県。外国人住民の増加に伴い、安心して日常生活を送るために、日本語学習の環境づくりの取組みを進めていく必要性が高まってきました。そこで昨年度からスタートしたのが、「SIC訪問日本語コース」です。日本語ボランティアが外国人住民を訪ねて日本語学習のサポートをするという、全国的にも珍しい取組みについてご紹介します。(「SIC訪問日本語コース」は、文化庁「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」として実施しています)

^{*1} 2019年12月末現在、島根県文化国際課調べ ^{*2} 2019年1月1日現在、2019年7月に総務省が公表



リラックスした雰囲気での学習

1. コース概要

島根県には、20の日本語教室があり、ボランティアの皆さんとの取組みで、外国人住民の皆さんに日本語を学習し、地域の日本人と交流する機会が提供されています。しかし、「近くに日本語教室がない」「移動手段が限られている」「仕事の休みが教室開催日と合わない」「子育てなどの事情で外出しにくい」等の理由から、日本語を学びたくても日本語教室に通うのが難しい外国人住民が多くいるのも事実です。そのため、日本語によるコミュニケーションがとれず孤立したり、自立した生活が送れなかったりといった外国人住民が地域で取り残される懸念が生じています。

こうしたことから、外国人住民に対する日本語学習の環境を整えることを目的に「SIC訪問日本語コース」は始まりました。

特徴1

学習者に合わせた時間・場所で日本語が学べる！

このコースで学びたい外国人住民は、年に3回の募集時期にしまね国際センターに申込みをします。その際、場所（自宅か近くの公共施設）や曜日・時間などの希望を伺い、当センターが日本語ボランティアに登録している方とのマッチングを行います。学習を始める前には、センター職員・通訳が同席しての顔合わせ・注意点の確認等を行うので、学習者とボランティアの方に安心してスタートしてもらえます。



- ※1回の学習時間は90分で、全10回のコースです。
- ※無料で受講できます。
- ※友達や家族と一緒に申込むこともできます。
- ※1回の募集につき、30人まで申込みを受け付けます。



自宅で日本語が学べます

特徴2

島根県オリジナルテキスト 『いっしょに にほんご しまねけん』

使用する教材は、このコースのために開発された『いっしょに にほんご しまねけん』です。島根大学外国語教育センター佐藤智照先生に監修していただき、島根県在住の5名の執筆者の皆さんのご協力のもと、完成しました。全10課で構成されており、買い物や自分の体調不良を伝えるなど日常の行為に必要な日本語だけでなく、ふるさとについて紹介したり休日の過ごし方を話したりするなど日常のコミュニケーションで必要な日本語、災害時や仕事を探すとき、子どもの学校に電話をするときに必要な日本語なども学べる内容になっていて、様々な環境で生活する学習者それぞれに必要な表現を学ぶことができます。



『いつしょに にほんご しまねけん』は、しまね国際センターホームページからダウンロードして、どなたでも無料でお使いいただけますので、ぜひご活用ください。



特徴3 日本語ボランティア養成講座

『いつしょに にほんご しまねけん』
ダウンロードページ→

「このコースで日本語を教えてみたい！」という方を対象に、不定期で「日本語ボランティア養成講座」を開催しています。全4回で、国際理解や異文化間コミュニケーション、「やさしい日本語」の使い方、オリジナルテキストを使った教え方について学んだ後、実際にボランティアとして活動したいという方は、ボランティアとして登録していただきます。

「SIC訪問日本語コース」では、日本語を教えた経験はないし、外国語もできないという方も大勢ボランティアとして活動中です。講座でも学ぶ「やさしい日本語」は、外国人住民と交流する際、とても役に立ちます。

島根県が実施した「日本人住民に対する意識調査（しまねwebモニター調査）*3」の結果を見ると、外国人住民との交流に関心を持つ日本人住民が多い一方、約7割の方が「言葉の違い」が交流の壁になるとを考えていることが明らかになりました。

「やさしい日本語を使えば、外国人住民と交流できる。外国語は必ずしも必要なわけではない」ということを日本人住民に知ってもらうことも、このコースの目的の一つです。

*3 2019年7月に690名を対象にインターネットで実施



養成講座では、ペアになって、実際に教える練習をしました

特徴4 企業にも伺います！

今年度から、「SIC訪問日本語コース<企業訪問型>」をスタートさせました。このプログラムは、日常会話が話せるようになることだけが目的ではなく、日本語の習得により職場のコミュニケーションを改善し、仕事の効率化や安全な作業、チームワークの向上につなげることも大切にしています。

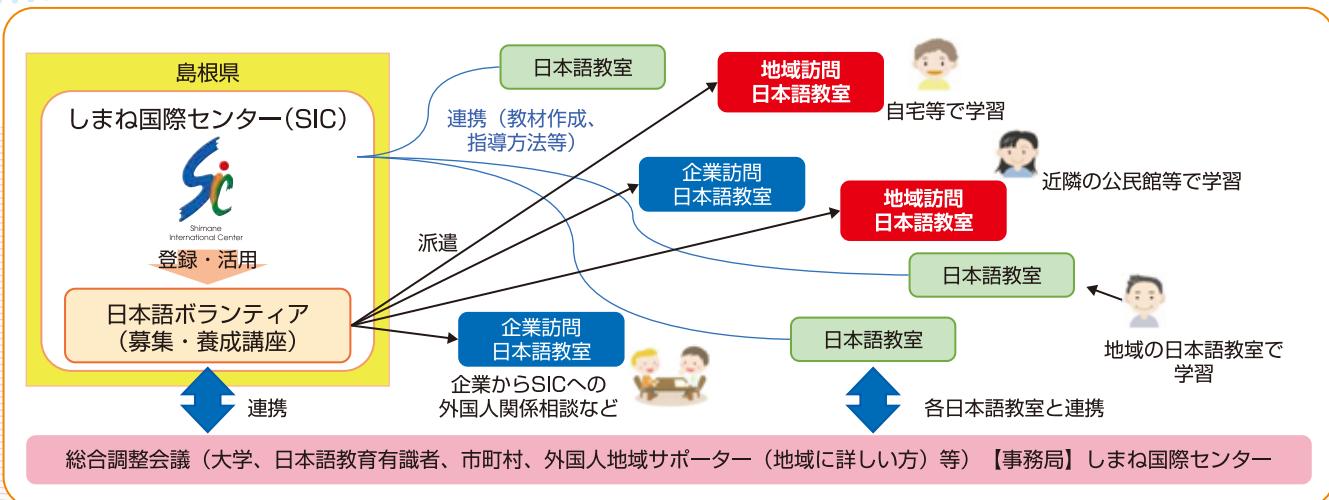
今年度は、浜田市にある有限会社日基リースでこのプログラムをご活用いただき、ベトナムとフィリピンの学習者がクラス形式で、従業員同士でより円滑なコミュニケーションが取れるようになること、仕事をする上で必要な指示を理解し、適切な行動ができるようになることを目標に、日常会話だけでなく、「シーツは広げて入れる」「機械の運転中は手を触れない」などの学習者自身が自分たちの仕事ですぐ使える日本語も学習しました。



「企業訪問型」授業風景

- ※企業訪問型コースの学習時間は、90分×全12回です。
- ※原則1クラス10名までのクラス形式で行います。
- ※有料プログラムです。
- ※申込みは、随時受け付けています。

〈SIC訪問日本語コース イメージ図〉



2. ボランティアのコメント

- ・学習を通して、たくさんお話をできました。日本での仕事、職場の様子、日本での暮らしや楽しみ・苦労、国の家族・文化・気候風土など、1対1の学習だったので、個人的な話を聞かせてもらうことができました。今まで知らずにいた技能実習生の日本での生活ぶりや思い、一生懸命働く姿など、このコースに参加しなければ知り得ないことを短時間に知り、いろんなことを感じました。
- ・外国の方が日本で働く上で一番困っていることが友人作りと言葉の壁だということを身をもって感じました。
- ・担当した学習者さんは日本語がほとんど話せない方でした。私も片言の英語しか使えず、コミュニケーションに苦労しましたが、だからこそ、お互い真剣に向き合うことができました。



3. 学習者のコメント

- ・毎回授業が楽しかったです。先生もとても親切で丁寧に教えてくれました。
- ・先生と仲良くなれてよかったです。授業じゃないとき、私の家族と先生の家族とごはんを食べました。
- ・自分の家で、都合のいい時間に勉強することができてよかったです。小さい子どもがいるので、教室に行くのは難しいと思っていました。先生が来てくれて、助かりました。
- ・3ヶ月勉強しました。先生は、日本での生活についてたくさん役に立つことを教えてくれました。とてもおもしろくて、楽しかったです。先生は、とても熱心で親切でした。
- ・10回の学習はあっという間で、もっとたくさん勉強したかったです。
- ・『いっしょに にほんご しまねけん』は、私のような初めて勉強する人にとっては、とてもいいテキストだと思います。

4. まとめ

「SIC訪問日本語コース」がきっかけとなり、雲南省掛合町ではとてもうれしい取組みにつながりました。

雲南省掛合交流センターでボランティアと日本語学習をしていたミャンマー男性3人が、交流センターや地区のイベントに参加するようになり、彼らが住む自治会でのミャンマー料理教室、防災教室開催へとつながりました（主催：掛合自治振興会）。町中で、地域の日本人住民とミャンマー人住民に挨拶をし合うようになり、令和元年に策定された掛合地区計画には「地区内に住む外国人との交流促進」が盛り込まれるまでになりました。



ミャンマー料理で交流！(雲南省)

この事業が目指すものは、外国人住民に日本語学習の機会を提供することだけではありません。

「日本語ができないから」という理由で日常生活や日本人住民との交流に難しさを感じている外国人住民を少しでも減らすこと。

言葉の壁を感じ、外国人住民との交流に踏み出せない日本人住民が「外国語ができなくても交流はできる」と感じられるようになること。

「SIC訪問日本語コース」をきっかけに、交流の輪が学習者とボランティアだけでなく、地域へと広がること。

これらを実現させることが、このコースの目標です。

「外国人住民を誰一人取り残さない^{*4}島根県」を目指して、引き続き「SIC訪問日本語コース」の充実に取り組みます。

*4 国連加盟国で取り組む「持続可能な開発目標（SDGs）」は、「誰一人取り残さない（no one will be left behind）」ことを誓っています。

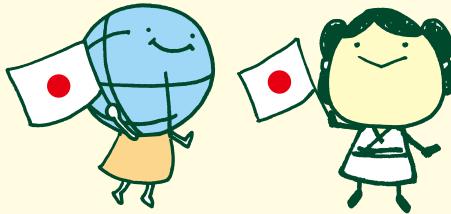
「SIC訪問日本語コース」で日本語を学んだ人たち

2018年～、4コースの実績



SICトピックス

しまね多文化共生総合相談ワンストップセンター



2019年6月から従来の外国人相談窓口を拡充して、12言語で情報提供や相談を行う「多文化共生総合相談ワンストップセンター」を開設しています。外国人住民のほか、外国人受入機関等から外国人への情報提供を目的とした相談にも対応しています。どうぞお気軽にご利用ください。

内容

在留手続き、雇用、医療、福祉、出産・子育て、子どもの教育、その他生活に関すること

利用方法

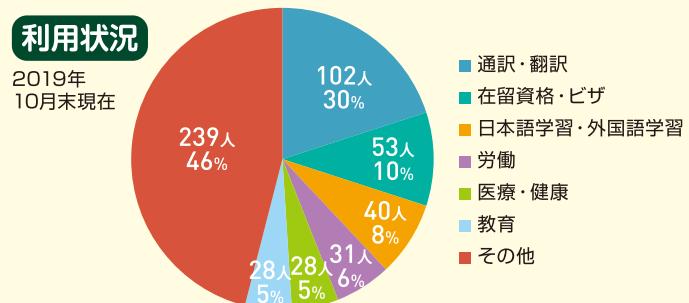
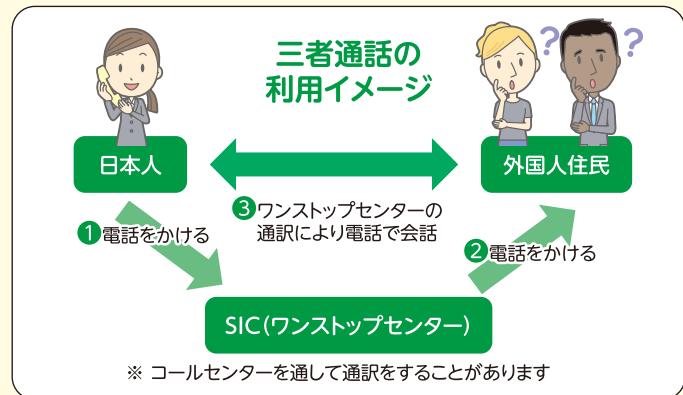
来所、電話での相談を無料で受け付けています。
専用ダイヤル: 070-3774-9329 (通話料はご負担ください)
※三者通話対応

開設日時

月～金(祝日・年末年始を除く)午前9時～午後5時

対応言語

12言語(英語・中国語(北京語)・タガログ語(フィリピン)・ポルトガル語(ブラジル)・ベトナム語・韓国語・ネパール語・インドネシア語・タイ語・スペイン語・ミャンマー語・クメール語(カンボジア))
(※は、今回新たに追加した言語)



JICA草の根技術協力事業(第2次プロジェクト)

サンパウロ州カサパーバ市における環境教育推進事業

2017年8月からスタートした第2次プロジェクトも3年目となり、残すところ半年足らずとなりました。このJICA草の根技術協力事業は、開始時に到達目標を設定し、関係者が連携してその達成を目指すものです。これまでに、島根の専門家の支援とカサパーバ市のプロジェクトメンバーの努力で、一定レベルの環境学習の年間カリキュラム(小学校)や市民向けの多数の環境教育プログラムが完成するなど、既に殆どの目標を達成できたところです。

こうした中、今年度はブラジルと日本の双方で、プロジェクトの成果を発表することができました。2019年4月の専門家派遣時には、現地滞在最終日の4月30日に、サンパウロのジャパンハウスで、在ブラジル島根県人会、JICAブラジル事務所との共催で「環境教育国際セミナー」を開催しました。在サンパウロ日本国総領事館上田領事、JICAブラジル事務所佐藤所長をはじめ、ブラジル各地から約90名の参加を得て、島根の専門家、カサパーバ市のプロジェクトメンバー及びカサパーバ市長がプロジェクトの紹介や環境教育の啓発を行い、広くプロジェクトの成果や環境教育の重要性を伝えられました。

また、9月には現地プロジェクト関係者5名を島根に迎えて研修を行い、最終日の10月2日にサンラポーむらくも(松江市)で、プロジェクトの報告会を開催しました。県内各界から約40名の参加を得て、島根の専門家5名、現地からの5名がそれぞれの立場から報告を行い、県内にこのプロジェクトの成果を報告することができました。



サンパウロ・ジャパンハウスでの報告会



松江市での報告会





ベトナム☆フェスタ @ ごうつ 2019

GOTO☆ワンハート さんとう よしゆき 山藤 美之

2019年7月、江津青年会議所(以下、JC)の元重慎市さんから、「日本語交流クラブGOTO☆ワンハート(以下、ワンハート)と連携して何かやりたい。」と相談がありました。即座に伝えたのが、かねてより考えていた



会場の様子

「ベトナム祭り」構想(妄想?)。ありがたいことに元重さんは、これにトーンと飛び乗ってこられ、勢いで名称『ベトナム☆フェスタ@ごうつ2019』、期日11月24日、場所パレットごうつ交流広場を早々に決め、開催に向けて共に突っ走りました。

当日朝8時、JCとワンハート併せて約

80人が協力しての準備。JCのポロシャツ、ベトナムTシャツが共に赤! JCのノリの良さ、ベトナム人の人懐っこさ、赤と赤の協働は感動的でした。

初開催、ベトナムに特化したイベント…果たしてお客様は来るのだろうか?一生懸命準備したベトナム人が閑散とした会場を見たら、どう思うだろうか?と考えたら胸が苦しくなるばかり…。

しかし、会場には次々とお客様が! あっという間に行列ができ、お昼すぎには完売のお店が続出、最終的には伝説的な来客数となりました。

出店、展示等に関わったベトナム人はワンハート39人を中心の大田・浜田の技能実習生、松江・出雲の技術者等で合計64人。さらに一般参加のベトナム人が江津、浜田、吉賀、松江等から約50人。小さな町、江津にこんなにベトナム人が集い、会場は彼らから発散される若いエネルギーに満ちあふれていました。

彼らもこの地域の住民。若いパワーで、この地域を創る担い手たちです。それを実感できた1日でした。



ベトナムの歌「ベトナムよ」をみんなで披露



SIC Report

エスアイサー・レポート

令和元年度国際化功労者顕彰

国際交流や国際協力、多文化共生など、島根県の国際化に尽力され、その功績が特に顕著な個人・団体を顕彰することを目的に、1998年度(平成10年度)から国際化功労者顕彰を行っています。

令和元年度は、次の2団体4個人に表彰状、1団体に感謝状が授与されました。

(☆ 表彰状 ★ 感謝状)



(前列左から)高木様、齋藤様、有馬理事長、庄原様、(後列左から)
高橋事務局長、「しまね日本語支援協会」熊谷様、長森様、今岡様、
「いすも長浜JK委員会」川上様

☆いすも長浜JK委員会
会長 川上 幸博(出雲市)

1998年(平成10年)の設立以来、韓国との交流を継続しながら、次世代の国際感覚を育む取組、地区文化祭での韓国・朝鮮半島紹介や講演会開催等、精力的な活動を実践。長浜小学校と韓国二校の初等学校との相互訪問が計14回に及ぶなど、長年にわたって地域における国際交流、国際理解の推進に貢献した。

みやもとももこ
☆出雲日本語ネットワーク(代表 宮本 百子)(出雲市)

2003年(平成15年)設立。技能実習生や日系ブラジル人等の外国人住民への日本語教室を開催し、学習者の希望に沿った日本語指導を実践。日本の遊びや文化

も取り入れた楽しい教室づくりを心がけ、外国人住民が快適に生活できるよう支援を行うなど、長年にわたって多文化共生の地域づくりに貢献した。

いまおか ゆうこ
☆今岡 祐子(雲南省)

2000年(平成12年)の木次町国際交流協会発足に尽力し、JICA青年招聘事業や研修事業等の展開に中心となって活躍。合併後は雲南省国際文化交流協会「さくら英語スピーチコンテスト」の立ち上げに携わり、以降11回の開催を数える。現在も当協会の副会長を務めるなど、長年にわたって地域の国際交流に貢献した。

さいとう ひろこ
☆齋藤 博子(益田市)

1997年(平成9年)の「益田日本語ボランティアグループ ともがき」の立ち上げメンバーの一人であり、以来22年間の長きにわたり外国人への日本語指導に携わった。加えて、コミュニティ通訳ボランティアや子どもサポートとしても精力的に活動し、長年にわたって地域の多文化共生の推進に貢献した。

じょぱら たまき
☆庄原 玉枝(松江市)

2001年(平成13年)から2017年(平成29年)までの16年間、松江市が主催する韓国青年「松江・日本文化講座」において、和装の紹介や着付け指導等を、無償ボランティアとして行ってきた。また、外国人学生のホームステイを受け入れるなど、長年にわたって地域における国際交流の推進に貢献した。

たかぎ みねこ
☆高木 峰子(松江市)

2009年(平成21年)に開設された「あさひ日本語教室」(現「あさひ日本語ひろば」)の代表として、精力的な活動を実践。また、外国人への日本語指導にとどまらず、日本文化に触れ、地域住民と交流する機会を提供するなど、外国人が松江で楽しく暮らせるよう支援を行い、多文化共生の推進と国際交流に貢献した。

ながもりてつこ
★しまね日本語支援協会(代表 長森 哲子)(松江市)

しまね国際研修館における日本語研修の実施団体として、2007年(平成19年)の設立以来、外国人技能実習生(日外国人研修生)や海外技術研修員、ALT等への指導に取り組んでいる。工夫を凝らした授業を行うとともに、オリジナル教材を作成し、県内日本語教室にも配布する等、積極的に活動している。

お知らせ

賛助会員、ボランティア登録者のみなさまへ

ご住所、電話番号、メールアドレスなどで登録情報が変更になった場合には、当センターへご連絡ください。

(公財)しまね国際センター [しまね外国人支援センター・しまね国際研修館]

〒690-0011 島根県松江市東津田町369番地1

TEL : 0852-31-5056

FAX : 0852-31-5055

[ホームページ] <https://www.sic-info.org>

[E-mail] admin@sic-info.org



【西部支所】

〒697-0016 島根県浜田市野原町2433番地2

公立大学法人 島根県立大学内

TEL : 0855-28-7990

FAX : 0855-28-7991

[E-mail] hamada@sic-info.org

当センターの基本財産は、次の各団体・企業からの寄付によって造成されました。島根県、県内全市町村、中国電力、山陰合同銀行、島根電工、山陰中央テレビジョン放送、山陰中央新報社、島根銀行、環境にやさしいインクで印刷しています。

★編集後記

5周年、10周年の記録をまとめた冊子を見ると、設立したころは国際交流が盛んで事業規模が大きく、当時の写真から伝わってくるにぎやかな雰囲気や豪華な様子に驚くばかりです。経済情勢が厳しく限られた予算の中でも、多文化共生の地域づくりに注力していきます。

まいるすとんず MILESTONES

Milestone (s) [まいるすとん(ズ)]とは道標、または画期的なできごとという意味があります。センターの設立、活動が島根県の国際化の歩みの中で意義深いものとなり、この機関誌が一つの道標としてお役に立てれば名付けられました。